平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年1月27日

上場会社名　ソーダニッカ株式会社　　上場取引所　東
コード番号　8158　URL　http://www.sodanikka.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 柳 康洋
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理副本部長　(氏名) 大村 昭　TEL 03-3245-1803
四半期報告書提出予定日　平成24年2月13日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	72,872	△3.6	1,166	△21.3	1,286	△18.1	682	△9.0
23年3月期第3四半期	75,581	3.6	1,483	8.7	1,570	15.1	750	8.2

(注)包括利益　24年3月期第3四半期　218百万円　(△57.0%)　23年3月期第3四半期　508百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	27.35	―
23年3月期第3四半期	30.03	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	54,506	15,815	29.0
23年3月期	49,926	15,898	31.8

(参考) 自己資本　24年3月期第3四半期　15,815百万円　23年3月期　15,898百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	6.00	―	6.00	12.00
24年3月期	―	6.00	―		
24年3月期(予想)				6.00	12.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	97,000	△4.0	1,520	△22.3	1,620	△20.6	920	△7.0	36.85

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	25,168,000 株	23年3月期	25,168,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	202,064 株	23年3月期	194,177 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	24,969,571 株	23年3月期3Q	24,978,565 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1.当四半期決算に関する定性的情報…… 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 …… 3

2.サマリー情報(その他)に関する事項…… 3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3

3.四半期連結財務諸表…… 4
(1) 四半期連結貸借対照表 …… 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
(3) 継続企業の前提に関する注記 …… 8
(4) セグメント情報等 …… 8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復旧・復興需要もあり、緩やかな回復の兆しが見られましたものの、欧州の債務危機を背景に長期化する円高の影響度は深刻さを増し、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループに関係の深い化学工業界につきましては、多くの企業が震災からの復旧を果たしましたものの、欧米景気の減速やタイにおける洪水の影響により輸出が伸び悩み全般的に稼働率が上がらないなど、総じて厳しい事業環境となりました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、化学品と機能材の事業を二軸とする経営を推進するとともに、海外取引の拡大と環境関連ビジネスの強化に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高728億7千2百万円（前年同期比3.6%減)、営業利益11億6千6百万円（同21.3%減)、経常利益12億8千6百万円（同18.1%減)、四半期純利益6億8千2百万円（同9.0%減）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

【化学品事業】

無機薬品につきましては、震災の影響により主力商品のか性ソーダ、製紙用途の過酸化水素及びクロレートは減収となりましたが、電池向けマンガン化合物は増収となりました。また、石油精製向けの水酸化マグネシウム、地盤改良用途のケイ酸ソーダ、水処理薬品のポリ塩化アルミニウムは増収となりました。

有機薬品につきましては、震災の影響により機能性溶剤は減収となりましたが、製紙用ラテックスは増収となりました。また、高分子凝集剤は官公庁向けの需要が伸びず減収となりました。

この結果、化学品事業といたしましては、売上高は前年同期に比べ4.7%減の525億2千2百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ6.4%減の17億3千1百万円となりました。

【機能材事業】

合成樹脂につきましては、エコ商品向けのポリプロピレン樹脂や環境製品向けのポリエステル樹脂は増収となりましたが、ポリエチレン樹脂はメーカーの撤退などにより減収となりました。

また、ポリエステルフィルム、ポリエチレンフィルム及び複合フィルムは震災後におけるサプライチェーンの維持が出来たことにより増収となりましたが、ポリプロピレンフィルムは減収となりました。

機器類につきましては、排水処理装置、包装関連機器、排ガス処理装置などの大型物件の受注により増収となりました。

その他資材につきましては、カーエレクトロニクス向け硝子製品は増収となりました。

また、地震対策用の液状化防止材料は、東北地区の震災復旧工事への集中により、民間工事物件が少なく減収となりました。

この結果、機能材事業といたしましては、売上高は前年同期に比べ1.3%減の199億1千9百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ4.1%減の5億2百万円となりました。

【その他事業】

その他の事業につきましては、連結子会社の曹達日化商貿(上海)有限公司の増収などにより、売上高は前年同期に比べ40.4%増の4億2千9百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ17.1%増の2千3百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

【財政状態の分析】

当第 3 四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ 45 億 7 千 9 百万円増加いたしました。

増減の主なものは資産の部では、受取手形及び売掛金が 17 億 2 百万円、商品及び製品が 46 億 4 千 6 百万円それぞれ増加し、現金及び預金が 11 億 2 千 8 百万円、投資有価証券が 9 億 9 千 6 百万円それぞれ減少いたしました。負債の部では、支払手形及び買掛金が 55 億 5 千 9 百万円増加し、未払法人税等が 4 億 2 千 1 百万円、繰延税金負債が 3 億 6 千 8 百万円それぞれ減少いたしました。純資産の部では利益剰余金が 3 億 8 千 3 百万円増加し、その他有価証券評価差額金が 4 億 8 千 9 百万円減少しております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の日本経済の見通しにつきましては、原子力災害の影響や欧州の債務危機により長期化する円高など企業収益に悪影響を及ぼす要因や迷走する国内政治の影響、雇用環境の悪化などもあり、依然として厳しい状況が続くものと予想されます。

このような事業環境の中で、当社グループは引き続き化学品と機能材の事業を二軸とする経営を推進するとともに、財務体質の強化と経営の効率化を図り、収益の改善に向けて全社一丸となって邁進する所存でございます。

平成 24 年 3 月期の通期の連結業績予想につきましては、平成 23 年 5 月 6 日付公表の数値に変更はありません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,986	4,857
受取手形及び売掛金	34,317	36,020
商品及び製品	517	5,163
繰延税金資産	153	49
その他	319	581
貸倒引当金	△56	△41
流動資産合計	41,237	46,631
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	445	409
土地	1,083	1,083
その他（純額）	101	80
有形固定資産合計	1,631	1,573
無形固定資産	116	277
投資その他の資産		
投資有価証券	6,154	5,158
長期貸付金	57	55
その他	774	835
貸倒引当金	△45	△26
投資その他の資産合計	6,942	6,023
固定資産合計	8,689	7,875
資産合計	49,926	54,506

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,947	31,507
短期借入金	5,000	5,000
未払法人税等	465	44
賞与引当金	225	112
役員賞与引当金	38	28
災害損失引当金	51	－
その他	574	669
流動負債合計	32,302	37,362
固定負債		
繰延税金負債	368	0
再評価に係る繰延税金負債	279	245
退職給付引当金	527	535
長期未払金	25	24
その他	525	523
固定負債合計	1,725	1,328
負債合計	34,028	38,690
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,762	3,762
資本剰余金	3,130	3,130
利益剰余金	8,097	8,480
自己株式	△51	△54
株主資本合計	14,937	15,318
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	883	393
繰延ヘッジ損益	2	△3
土地再評価差額金	99	133
為替換算調整勘定	△24	△27
その他の包括利益累計額合計	960	496
純資産合計	15,898	15,815
負債純資産合計	49,926	54,506

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
売上高	75,581	72,872
売上原価	70,544	68,183
売上総利益	5,036	4,689
販売費及び一般管理費	3,553	3,522
営業利益	1,483	1,166
営業外収益		
受取利息及び配当金	129	136
その他	34	46
営業外収益合計	163	183
営業外費用		
支払利息	48	45
売上割引	7	7
その他	19	10
営業外費用合計	76	63
経常利益	1,570	1,286
特別利益		
固定資産売却益	－	1
災害損失引当金戻入額	－	18
退職給付制度改定益	28	－
特別利益合計	28	19
特別損失		
固定資産除売却損	－	14
投資有価証券評価損	164	37
出資金評価損	－	5
会員権評価損	10	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	9	－
特別損失合計	184	57
税金等調整前四半期純利益	1,415	1,248
法人税、住民税及び事業税	566	438
法人税等調整額	99	127
法人税等合計	665	565
少数株主損益調整前四半期純利益	750	682
少数株主利益	－	－
四半期純利益	750	682

四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	750	682
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△213	△489
繰延ヘッジ損益	△19	△5
土地再評価差額金	－	34
為替換算調整勘定	△8	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	△241	△464
四半期包括利益	508	218
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	508	218
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
	化学品事業	機能材事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	55,095	20,179	306	75,581	―	75,581
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	28	28	△ 28	―
計	55,095	20,179	334	75,610	△ 28	75,581
セグメント利益	1,851	524	19	2,395	△ 912	1,483

（注）1.セグメント利益の調整額△912百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
	化学品事業	機能材事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	52,522	19,919	429	72,872	―	72,872
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	21	21	△ 21	―
計	52,522	19,919	451	72,893	△ 21	72,872
セグメント利益	1,731	502	23	2,258	△ 1,091	1,166

（注）1.セグメント利益の調整額△1,091百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

該当事項はありません。